

令和7年度光西福祉社会事業報告

1. 令和7年度を振り返って

(1) 光西福祉会役員動静状況

令和7年度は役員改選の年に当たり、理事2人、監事2人が退任。監事1人は交通事故で亡くなられたことによる。理事3人が新任、監事2人も新任。監事の1人は理事から監事に就任された。しかし、就任された8月頃、監事1人が町監査役となり、本法人の監査を退任。10月の評議員会で新たな監事が就任された。

理事会、評議員会の欠席者は1年間通して、第1回の理事会監事1人（死亡）、定例評議員会1人、第2回評議員会1人、第4回理事会1人、計4人だった。

園舎建替えについては、これまで子ども子育て会議で訴えてきたが3月の会議での議題に上がらなかった。そこで子育て担当係長と協議し、年度末に何とか健康増進課長に話が届いたと聞いた。

土地について、当園と面する県道側の土地から乗り入れできるように、所有者と土地売買交渉を行っていたが、一部境界線無き土地と判明。土地所有者と協議の結果、土地家屋調査士に相談・調査依頼し、8月所有者の帰省時に具体的交渉となる予定だ。

(2) 法人事業所内連携

各事業所間の連携については、各事業の代表者が月1回の企画会で事業調整や相談苦情についての共通理解を図る。職員会議は企画会で話し合われたことや各事業でのブロック会議で審議した課題を出し合い、職員全員で考え共通理解を語る。また、親睦を兼ね、本年度は歓迎会を法人全体で行い職員の交流を深め連携を図った。

事務については、月1回、各事業の事務担当者が一同に会し、予算等会計事務についてのテーマを設け、制度を併せた事務処理の仕方、予算の立て方等を話し合った。

(3) 財政確保

2年続けてこども園は定員割れのスタート。職員数は十分な確保で人件費が厳しい。しかし、年度末は定員が満たされたことや、人事勧告で約5%の財源を確保出来たので、全額を全職員へ一時金として還元したり、園舎建替えの積立金をも確保できた。

放課後健全育成事業は、大きな工事や備品購入もなかったのも、こども園に倣って一時金を支給した。子育て支援センター職員にも一時金を支給で来た。

2. 令和7年度実施事業

(1) 工事関係

- ・高山こども園…エアコン2基設置
- ・学童クラブ……門扉設置

(2) 地域関連機関との連携

- ①療育機関……通所幼児について療育機関との面談を定期的実施（3か所）
- ②小学校………幼保小中連絡会（施設長会2回、専門部会2回、学校見学1回）
- ③町行政………子ども子育て会議に園長と室長参加

町保健課・福祉課と子育て支援センターは定期的会議

(3) 自主事業

- ①地域とのふれあい事業（上の原振興会…種まき、町老人会…敬老の日お祝い）
- ②職場体験受け入れ事業（高山准看護学校、高山中学校、楠隼中）
- ③保育養成校（短大等）実習生受け入れ…1名
- ④作業療法士介入保育（こども園…各月1回、学童クラブ…各月1回）
- ⑤英語体験（ALT月1回）
- ⑥遊びミーティング（鹿屋体大：教授森司郎氏指導「集団遊びの検証」…月1回）

2. 監査実施内容

(1) 内部経理監査……監査職員（主任保育士 若松優梨花）

①実施期日 令和7年10月27日（月）10時～12時、13時～15時

(2) 外部監査（3回）…監査員：公認会計士 小林千鶴

①実施期日 令和7年5月21日（水）10時～12時

令和7年10月22日（水）10時～12時半

令和7年3月23日（月）10時～12時

(3) 監事監査……監事（渡邊敏哉）

①実施期日 令和7年5月22日（木）13時から18時（令和6年度分）

(4) 県指導監査

①実施期日 令和7年8月8日（木）9時～2時間程度

②監査方法 集合監査

③監査職員 指導監査係

3. 理事会・評議員会等の実施

(1) 理事会

①第1回光西福祉会理事会 令和7年5月29日（木）16時半～18時

②第2回光西福祉会理事会 令和7年6月13日（金）17時半～18時

③第3回光西福祉会理事会 令和7年10月31日（金）16時半～17時半

④第4回光西福祉会理事会 令和8年3月27日（金）16時半～18時

(2) 評議員選任・解任委員会 令和7年6月13日（金）16時～16時半

(3) 評議員会

①定時評議員会 令和7年6月13日（金）16時半～17時半

②第2回評議員会 令和7年10月31日（金）18時～18時半

(4) 相談・苦情解決委員会 令和7年4月19日（土）16時半～17時半

4. 理事等出会研修

(1) 社会福祉法人ブロック別監事等研修会……監事2人出会

①日時 令和7年12月10日（水）13時30分から15時30分

②場所 鹿屋市東地区学習センター

(2) オンライン研修会…理事長視聴参加

①令和7年8月28日「行動が気になる子どもへの理解と合理的配慮」

②令和7年9月9日「『処遇改善等加算』解説セミナー」

(3) 施設長研修会…園長（理事長）参加

①日時 令和7年12月9日（火）14時30分から16時30分

②テーマ 『園における事故防止』

③場所 鹿屋市リナシティー

5. 職員の動静

(1) こども園（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

・採用…新卒正規保育士1人（純心短大）、調理師代替え1人、臨時保育士1人

・育休…正規調理師1人

・退職…常勤契約保育士1人

(2) 学童クラブ（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

・退職…非常勤学童支援員3人（7月1人、3月2人）

(3) 子育て支援（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

・採用…子育て支援員2人（1月） ・育休…子育て支援員1人（12月）

・退職…子育て支援員1人（12月）

1. 保育について

「思いやりと意欲のある子どもを育てる」という保育目標のもと、職員が気づいたことを互いに伝え合い、自分自身の保育の視野を広げた結果、充実した保育活動が展開された。子どもの主体的な遊びを「学び」ととらえ、「環境」について職員で保育研究・研修をして、深めてきた。「環境」といっても、物的環境・人的環境など様々である。この時期の子ども達は、環境に働きかけ、遊びという形で、何度も同じ行為を繰り返すことによって、環境に合わせて、様々な能力を獲得することや、子どもがこれからの社会を生き抜く中で、失敗から立ち直るレジリエンス(跳ね返す力)を持つことが不可欠で、そのためには主体的に動き、試行錯誤ができる環境が大切であることを学んだ。また子ども達は、多様性の中を生きていて、多様性のある人的環境も、また豊かな環境の一つであることを意識し、個を大切にしたい保育を展開することができた。より良い人的環境の共通点は、「子どもの力を信じて待つこと」であり、保育者は、個と集団のバランスを考えながら、子どもの力を信じ、子ども達が環境に働きかけて遊びを広げていくことを共に楽しめるようにしていきたい。

また、保護者支援においては、忙しい日常の中に、家族・子どもの育てにくさ、発達の悩み等を抱えたケースや、育児への不安感や負担感、孤立感を抱えるケースなど、面談をくり返し行ってきた。子どもの困り感は、子どもだけの問題ではなく、保護者が子育ての負担を感じていたりする。「自分の話を聴いてもらえた」と思ってもらえるよう、カウンセリングマインドを持って接し、関係を構築することも求められるため、専門性の向上に努める。大切なことは、保育者は保護者が問題解決をしていく力が蓄えられるまで、保護者に伴奏しながら支援することや、「子どもにとって何が最も良いことなのか」を共に考え、相談支援を進めていくことだと学んだ。次年度も各リーダーが自分自身の力を伸ばしながら、他職員へアプローチをし、園全体の質の向上につなげていきたい。

2. 職員園内研修【研修内容】

月	研 修 内 容		担当
4月	理論研修	人的環境について考える ～人への信頼を築くことがすべての発達のはじまり～	若松
5月	実践研修	物的環境について学びを深める① ～五感と身体を通して学ぶ子どもの遊びを引き出す環境～	今原・堂園
6月	保育研究	食育マップを立てよう！① ～子どもと共にワクワク・ドキドキ・幸せいっぱいな時間を過ごそう～	江之口・盛川
7月	理論研修	からだの脳を考える ～主体的な活動を行うための基礎となる生活を見直す～	吉留・原口
8月	保育研究	きりん組の保育研究～各視点より学ぶ～	若松・篠原
9月	事例検討	見える化の工夫～子ども理解につながるドキュメンテーションの活用～	東・原口・横山
10月	理論研修	子どもの把握と理解～感情・考え・能力や価値観を受容すること～	吉留・磯俣・篠原
11月	保育研究	うさぎ組の保育研究～各視点より学ぶ～	横山・若松
12月	事例検討	保護者支援 ～保育者は学びによって相手に届く援助ができる～	磯俣・東
1月	保育研究	食育マップを立てよう！② ～マップづくりから見えてきたもの・収穫できたこと～	江之口・盛川
2月	実践研修	物的環境について学びを深める② ～五感と身体を通して学ぶ子どもの遊びを引き出す環境～	今原・堂園
3月	反省及び来年度への課題		若松

3. 家庭との連携

日々、子ども達の送迎時に保育の様子を口頭で伝え連携を図っている。また、その都度、保護者からの相談もあり、個別面談へとつながったケースもいくつかあった。連絡帳記入やドキュメンテーションの配信により、こどもの様々な姿を家庭へと伝えていき、共通理解を図る。「クラス便り」は月2回、「園便り」を月1回、随時「安全・保健たより」を発行。母親交流会も1月に行い、親睦を図った。保護者の役員会が年8回開催。行事は家庭との交流を図る最適の場であるので、内容を工夫して行う。保護者に対して保育の見える化を図るためにも、保育室に活動写真の掲載を行い、保育体験デーを実施し、子どもの姿や園生活への理解を深めている。また、コドモンアプリを取り入れたことによって、お知らせ配信をスムーズに行えるようになった。アプリの利便性も上手に使いながら、保護者支援に努めていきたい。

4. 行事について

・毎月1回は必ず実施される行事

交通安全指導、避難訓練、職員研修、職員会議(常勤・非常勤)、お寺の日、ブロック会議、安全点検、身体測定、企画会、ALT訪問、遊びミーティング、作業療法士訪問(奇数月)

体操集会 5、6月ほぼ毎日・お話集会 11月～3月間週1回

4月	入園式 クラス会 親子遠足 相談苦情第三者委員への報告会	10月	運動会予行練習 運動会 職員健康診断 内部経理監査 楠隼中職場体験学習 理事会
5月	探検の日 役員会 理事会 高山中職場体験学習 県警による交通安全指導	11月	秋の遠足 肝付町文化祭 護美の日 保育体験DAY 役員会 観劇会 楠隼中ふれあい体験学習 老人クラブ交流
6月	歯科検診 内科検診 総懇親会 護美の日 探検の日 役員会 高山准看実習受入れ	12月	もちつき大会 探検の日 お寺の日(クリスマス会) 内科検診
7月	プール開き 七夕会 夕涼み会 保育体験DAY	1月	探検の日(たこあげ) 母親交流会
8月	お盆保育	2月	節分会 こどもまつり 鹿児島女子短期大学生実習
9月	役員会 探検の日 コスモスの種まき	3月	雛祭り会 春の遠足 役員会 新入園児面接 会計士監査 お別れ会 卒園式 理事会

令和 7 年度 病後児保育コアラ館 事業報告

1. 事業について

今年度で 7 年目となる。昨年度同様、新型コロナウイルス感染症利用児はまだ受け入れていない現状である。しかし、多種に渡る感染症の流行もあり 177 人・利用回数は 370 回の利用であった。時期によって流行しやすい病気や、保育に関する学習・実践を用いた討議を職員研修の中で行い、また病状により部屋調整を行い安全で安心な保育看護の実施に努め、二次感染症を起こすことなく運営ができた。

2. 利用状況

病名/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
気管支炎	1	3	15	4	0	4	0	2	0	1	0	14	44
急性上気道炎	0	8	2	7	7	8	0	6	4	8	12	5	67
プール熱	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	4
咽頭炎	4	7	6	1	5	3	13	0	3	1	2	3	48
喘息性気管支炎	0	2	6	1	0	0	4	0	0	0	12	0	25
咽頭喉頭炎	0	0	1	2	1	0	0	0	2	0	0	4	10
RSウイルス	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
アレルギー性鼻炎	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
溶連菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	0	7
感冒	1	0	4	3	0	2	0	1	0	0	3	2	16
感染性胃腸炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	5
マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
急性胃腸炎	10	2	3	3	12	2	7	0	2	16	4	4	65
結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
ウイルス感染症	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5
伝染性膿痂疹	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
扁桃腺炎	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ヒトメタニューモ	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
アトピー性皮膚炎	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
前額部裂傷	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
アデノウイルス	1	3	0	0	0	0	0	0	4	0	6	0	14
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	2	19	9	3	0	33
合 計	31	26	38	28	27	19	27	13	36	41	52	32	370

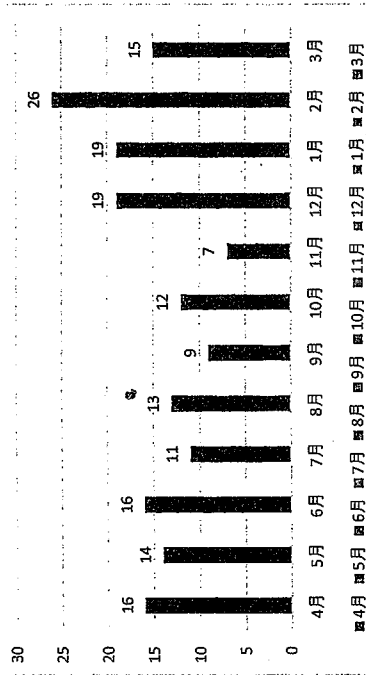
上記の表にて、急性上気道炎が一番多い疾患であり、2月の利用者数が一番多かった。

病後児保育コアプラ館 令和7年4月～令和8年3月 利用者数報告

①月別利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	16	14	16	11	13	9	12	7	19	19	26	15	177

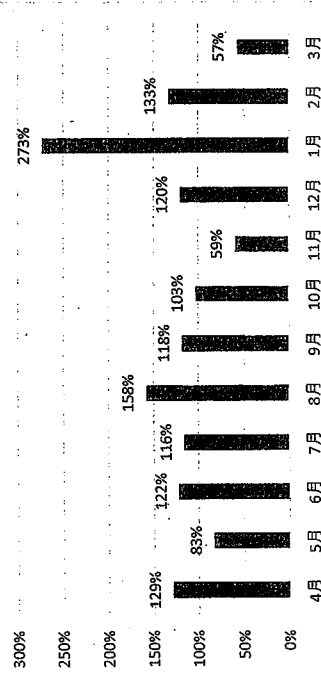
月別利用者数



②月別利用率(前年比)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用率	129%	83%	122%	116%	158%	118%	103%	59%	120%	273%	133%	57%	111%

利用率



3. 家庭との連携

病氣回復期にある子どもの病態に合わせた保育看護の実践を行えたのではないかと考える。
あずかるこちゃん(令和8年4月よりTeOTeへ名称変更)の予約システムを導入し、コアプラ館利用中の
子どもの様子がわかるよう保育記録も閲覧できるようになった。病氣回復期の子どもを預ける保護者の
思いに寄り添えるよう傾聴していくことに努めた。
また、子どもの病態に合わせて部屋調整を行い、感染予防策を講じた。

4. コアプラ館内研修

4月	本年度の目標
5月	危険個所の確認と避難訓練
6月	熱性けいれん
7月	熱中症
8月	不審者対応
9月	年齢に合わせた絵本の選び方
10月	マイコプラズマ感染症
11月	手足口病
12月	子どもに寄り添う
1月	感触遊び
2月	保護者に寄り添う
3月	反省及び来年度への課題

5. 広報活動について

年に4回コアプラ館通信を発行することができた。地域に回覧をしたり従来からのポスター掲示場所に
掲示を行った。掲示場所は、毎月の見回り、点検と補充を継続して行っている。
町外からの利用者も多く、継続している広報活動により周知されていると考える。
R7年4月より病後児保育ネット予約システム「あずかるこちゃん」を導入している。
コアプラ館のホームページ、あずかるこちゃんQRコードを広報きもつきにも掲載しネット上から予約・
用紙のダウンロードをできるようにしている。

2025年度 高山学童クラブ事業実施報告

1. 状況報告

第Ⅰ高山学童クラブ(1・2年生対象, 以下「第Ⅰ」), 第Ⅱ高山学童クラブ(3～6年生対象, 以下「第Ⅱ」)の2支援体制で保育を行う。年間平均、第Ⅰは36名、第Ⅱは33名の登録があり、平日の利用者数は第Ⅰ・第Ⅱそれぞれ20名ほどであった。中には習い事等により決まった曜日のみ利用する児童や、学童館から習い事に行く児童も見られた。途中退所児童の退所理由は、習い事や転居、自宅で過ごせるようになったためであった。

子ども達が主体的に活動できるよう、話し合いの機会を度々設ける。また、子どもが自分の考えや思いを表明できるような働きかけを心がける。自分達で話し合い、考えたということで、子ども達は試行錯誤しながら話を進める難しさや、話がまとまったときの達成感を体験できた。

日々の遊びや生活の中では、『三間(時間・空間・仲間の3つの間)』を保障することで、子ども自身がやりたいことを見つけ、遊びを発展していった。

発達や情緒の面では個人差が大きく、支援員として子ども一人ひとりの発達や状況等を理解し、接していくことの重要性を切に感じた。

2. 学童クラブにおける支援について

- イ. 学童クラブでの子どもの様子を常に観察し、子どもが抱えている思いを自分で表明できるような関わりを持つことを心がけた。子どもの話に耳を傾け、子ども達の思いに寄り添うことで、子どもとの信頼関係を築き、子ども一人ひとりが安心して過ごすことのできる場となるよう努めた。
- ロ. 活動計画の作成において子ども達の意見やアイデアを取り入れ、子ども達にとって魅力的な活動を提案するなど、子ども達の主体的な遊びや生活が可能となるような環境作りに努めた。
- ハ. 避難訓練時には、避難の仕方や注意点等についての話し合いを行い、子ども達自身も意見を出し合いながら大切なことを確認し合った。
- ニ. 『三間』を保障することで、仲間意識や思いやり、集中力、社会性、調整力等を培えるような保育を行った。
- ホ. 健康や衛生に関することや日常生活に関することなどの基本的な生活習慣を身に付けられるよう、声かけや話し合いを随時行い、子ども達の意識を高められるよう心掛けた。

3. 職員間の連携

- イ. 職員間でのミーティングを行い、情報共有や情報交換、活動の流れの確認、気になる児童のこと等について話し合うことができた。また、ミーティング時以外でも、気になることや気付いたこと、確認事項等についてその都度話し合い、意見を出し合いながら職員間の連携を図ることができた。
- ロ. 自分の役割を各自意識し、協力し合いながら職務に当たることができた。

4. 小学校との連携

- イ. 小学校施設(校庭、体育館)を利用させてもらった。
- ロ. 学校からの連絡メールに登録するなどして、学校の状況を知ることが出来た。

5. 家庭との連携

- イ. お迎え時に、学童クラブでの遊びや生活の様子等を口頭で伝え、保護者と情報を共有できるよう努めた。
- ロ. 保護者から相談があった時には、保護者の気持ちを受け止め、共感に基づいた言葉をかけることで、保護者の不安を解消することができるような対応を心掛けた。
- ハ. 学童クラブ通信を月に1回発行し、活動や子ども達の日常の様子等を伝えることができた。
- ニ. 新年度の始まる前(3月下旬)に、新規入所児童の保護者を対象とした入所説明会にて、重要事項の説明と入所契約の締結を行った。継続児童保護者に対しては、お迎えの際に口頭でお伝えし、文書でも確認して頂いた上で、入所契約の締結を行った。

6. 地域との交流

- イ. 地域の方に学童に来てもらい、竹の水鉄砲作りを行った。
- ロ. 地域の祭りで開催される子ども漫才の指導に来てもらった。
- ハ. 消防署に依頼し、火災の避難訓練を行った。

7. 行事や諸活動について ※(Ⅰ)… 第Ⅰ高山学童クラブ, (Ⅱ)… 第Ⅱ高山学童クラブ

月	行事	話し合い活動	自治活動
4	・避難訓練(不審者) ・新入生歓迎会	・学童での過ごし方(Ⅰ) ・道具の片づけ・遊び方について(Ⅰ,Ⅱ) ・学童での生活について(Ⅰ,Ⅱ)	・新年度オリエンテーション ・開所式
5	・夏野菜栽培 ・さつま芋の苗植え ・梅ジュース作り	・夏野菜栽培の話し合い(Ⅰ,Ⅱ) ・土曜日の活動について(Ⅰ,Ⅱ)	
6	・チャレラン大会 1 回目	・夏休みの話し合い(Ⅰ,Ⅱ)	
7	・避難訓練(風水害) ・緑陰読書会 ・竹の水鉄砲作り ・スイーツ Day ・そうめん流し	・夏休みオリエンテーション(Ⅰ,Ⅱ) ・夏休みの過ごし方(Ⅰ,Ⅱ) ・活動のグループ決め(Ⅱ) ・基地作りの構想(Ⅱ)	・プールの準備 ・基地作り、基地遊び
8	・学童の会ドッジボール大会 ・スイカ割り ・夏まつり ・パフェ作り	・夏まつりの話し合い ・午前中の過ごし方について(Ⅰ,Ⅱ) ・話の聞き方について(Ⅱ) ・今後の活動について(Ⅱ)	・夏まつりの準備 ・大掃除(プールの片づけ)
9	・お月見相撲大会	・冬野菜栽培の話し合い(Ⅰ,Ⅱ) ・秋祭りについて	・畑の野菜収穫 ・基地の片付け
10	・冬野菜栽培 ・映写会	・秋まつりの話し合い(Ⅰ,Ⅱ)	・秋祭りの準備 ・冬野菜の手入れ
11	・秋まつり ・(仮)たろうさんのお笑いワークショップ ・チャレラン大会 2 回目 ・避難訓練(避難経路確認) ・芋ほり	・クリスマス会について	・冬野菜の収穫 ・花壇の手入れ
12	・避難訓練(火災) ・クリスマス会	・クリスマス会の話し合い(Ⅰ,Ⅱ)	・クリスマス会の準備 ・大掃除 ・駄菓子屋さん
1	・凧揚げ ・節分	・本日の活動について(Ⅰ,Ⅱ)	・みんなでケイドロ、お宝とり ・凧作り
2	・チャレラン大会 3 回目	・土曜日の活動について(Ⅰ,Ⅱ)	
3	・体育館で遊ぼう ・お別れ会	・新入生を迎える準備(Ⅰ,Ⅱ) ・お別れ会について(Ⅰ,Ⅱ)	・6年生のリクエストおやつ作り ・お別れ会準備

令和7年度 肝付町子育て支援事業実施報告書

高山子育て支援センター ちゃいるどほうす

1、利用・運営状況について

当センターでは、町の委託を受け次の4つの事業を融合的に実施している。

① 地域子育て支援拠点事業 ②一時預かり事業 ③乳児家庭全戸訪問事業 ④利用者支援事業(基本型)

令和7年度利用状況は開館日数 270 日・利用者数 4,911 人(延)・1日当たり約 18,2 人であった(資料③)。

一時預かり児数は延べ 115 人(前年度比較:約 4 割減)であった(資料⑤)。保護者のニーズや事情を考慮した受け入れに努め、乳幼児の月齢・年齢・人数に対し、安全な保育が見込めるよう保育士1～3名程度を配置し取り組んだ。近年、児の1歳前後における就園(親の就労、産後育児専念による就園など)は増加傾向である。また、年間を通し恒常的利用が少なかった。

赤ちゃん訪問件数 55 件であった(資料⑥)。行政との連携のもと、養育支援やママ訪問実施の足掛かりの機会として、産後の体調回復と児の発育発達や育児の困りごとの有無などに丁寧に耳を傾けつつ、具体的助言と必要な情報提供に努めた。

相談件数は約 315 件の対応(約 1 割増)であった(資料②・④)。社会変化が目まぐるしい近年、子どもを知らないことから始まった育児生活において、妊娠期から子育て期にわたる育児の様々な問題は町内でも増加している。母親が抱える困り事や悩み事は、「児の泣き、離乳食、子どもとの関わり方、発育発達、就園」の順に多数であった。これらは家庭の問題や子どもの育てにくさと発達遅れの悩み等の関連があり、途絶えることはなかった。

福祉課と連携する養育支援訪問事業は、養育支援ママを養成し訪問の実施に備えた。実施は無かった。

講座等の託児ではボランティア保育ママを養成し必要に応じ協力依頼を実施した。

当センターの情報は、諸施設等での通信掲示・ホームページ・子育てネットコトコに加えインスタグラムも併用し案内した。妊娠期から子育て期対象者には郵送や電話案内も含め、顔の見える関係づくりとして乳幼児健診会場に足を運び母親の孤立予防に努めた。地域回覧板での周知も継続し取り組んだ(資料①)。

悩みを抱える親子へ、どのように対応し支援していくのかは大変難しい。同僚性をもって日々の対応を振り返ることや、内部研修(毎月1回)では「ロールプレイング・演習問題・専門書・コンピテンシーリスト等」を活用し、支援者の現場対応力・母子援助力等、支援員としての専門性や資質向上に努めた。例年取り組んでいる「親子関係形成支援プログラム(NP)・(BP1)」の内、「BP1ファシリテーター養成講座」に1名受講した。認定を受けた後はプログラム実施の質向上に繋がると考えられる。

利用者対応は常時支援員2名以上の配置とした。相談内容は多岐にわたることや、保健師助産師との連携が必要となるケースもある為、2名以上の配置に努めた。

全体において事故怪我等無く、支援員やセンター利用についての相談苦情も無かった。

2、事業について

(1) 地域子育て支援拠点事業

イ、遊び場としての利用認知も拡がり気軽に来館頂くことで、親子の交流がきっかけとなり様々な情報に触れ子育てについて考える機会になった。リピーターの方や育児サークル「ひよっこ」会員においては、利用者同士の交流が深まることで育児不安などが軽減されていく姿が母親自身の表情や言動から窺えた。(資料①)

子育ての悩みを出し合える場として設定された育児講座(NP・BP1)では、母親自身が互いに悩みを共有・共感し合い学び合えたことで子育て生活への前向きな姿勢をもたらしたと考えられ、不安感の軽減効果は大きいものであったと考えられる。

ロ、 丁寧な相談対応に心掛けることや、状況やニーズに沿った育児講座等の案内と参加の呼びかけにも努めた。日常の育児に役立つ実践的活動（特に口の発達と食）にも個別に取り組むことで、発達に応じた具体的助言や母親の子ども理解とその関わり方に繋がったと考えられる。

当センターでの相談対応だけでは難しい場合には関係機関や専門職等との連携により、母子にとって最善の利益となるよう対応に努めた。

ハ、 利用しやすいセンターとしてメニュー活動のみならず、親子の遊び場としての利用案内や柔軟な対応に努めた。

（２）一時預かり事業

諸施設等における利用案内チラシの掲示やホームページ等での案内を継続的に取り組んだ。利用者数は延べ115名で、利用が多かった順は 0 歳児・1歳児・2歳児であった。今年度は恒常的利用が少なかった。（資料⑤）

「育児疲れ解消」の為の利用では、相談対応の際に一時保育利用の提案をさせて頂くことで、肯定的に継続利用され、母親の体調改善が見られたケースもあった。母親自身の心身の健康の重要性を認識し、今後も安心して利用頂けるサポートに努めていきたい。

支援員が直に子どもに触れる機会となることから、発育発達や関わり方の工夫などが具体的に捉えられる。その際、母親への子ども理解に繋ぐことや、利用されることにより母親自身の育児に対する困り事などを相談いただく機会にもなり不安軽減に繋がった。

（３）乳児家庭全戸訪問事業

対象件数 55 件、実施件数 55 件（乳児数：55 名）で、訪問が難しい場合には行政と連携し当センターにて面談を実施した。（資料⑥）

出産から産後回復期にかけて、又は里帰り出産から戻られた後になど父親の育児休業取得の増加により、夫婦で協力し合いながら育児家事等に取り組まれる家庭も珍しくなかった。夫や家族に協力を得にくい関係・環境の場合や、母親や家族の心身の不調などの問題に関わる家庭では訪問（面談）に時間を要した。父親や家族の同席があった際には、可能な場合は同席者にも面談させて頂いた。

母親・児・家族の問題等を抱えるケースについては、毎月の子育て支援定例会において必要な情報共有を図り、適切な対応の実施に努めた。育児の不安感・負担感や孤立感のある対象者はもとより可能な限りスタッフ 2 名で訪問し、産後の生活や不安なことについて丁寧な相談対応に努めた。

（４）利用者支援事業（基本型）

利用者支援事業の周知活動として随時利用案内やリーフレットの郵送・配布・ホームページやインスタグラム掲載等に取り組んだ。各事業と情報共有し妊娠期から子育て期に亘る利用者の丁寧な相談対応や社会資源の円滑な利用に繋がるよう努めた。

夫や家族・子どもの育てにくさと発達の悩み等を抱えたケースでは、行政と連携し面談や親子教室を案内した。受診・療育に繋がるケースも多かった。（資料④）

養育支援訪問実施に備え養育支援ママ（登録 5 名）養成と、支援活動における託児サポート等の協力を頂くボランティア保育ママ（登録 9 名）の養成を実施し登録を頂いた。

令和 7年度 地域子育て支援拠点事業 相談内容集計表

資料②

内 容 / 月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
基本的生活習慣	睡眠		1			3		3				1	1	1	10
	食事	授乳				2		1		1		1	1	2	8
		離乳食	4	2	2	5	3	5	6		4	3	2	6	42
		食事			1		1					1		1	4
	排泄		1			1					1				3
離乳（断乳・卒乳）									1			1			2
発育・発達	寝返り・座位・はふく・歩行・箸使い(手指)				1	2	2	2	2	1		2			12
	身体の発育				1	1									2
	(言語・コミュニケーション)									1		2	1	1	5
	(社会性・他者への関心)				1						1				2
	(性格・特性)														0
	(くせ・こだわり)											1			1
	(心・衝動性・無気力)											1			1
医学的問題										1		2			3
環境	家庭 〔 夫婦／一人親／家族 ／子ども／経済面 〕			1							1				2
	生活(近隣・地域) (遊び場／地域交流)					1						1			2
育児方法	健康			1	1									1	3
	子どもとの関わり方		1		1	6	1	3	2	1		1	1	2	19
	しつけ		1												
その他	子育て情報 育児に関係あり (就園／就労／療育)		1			1			2			2			6
	育児に関係なし														
面接相談			9	4	8	22	7	14	13	5	9	17	6	14	128
電話相談			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計			9	4	8	22	7	14	13	5	9	17	6	14	128

月合計 / 開館日数	利 用 者 数																	
	大 人		子 供		0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		合 計		合 計	
	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	総数	
4月 / 24日	64	93	59	103	42	56	13	39	3	5	0	1	1	2	123	196	319	
5月 / 23日	64	105	61	102	36	60	22	26	3	14	0	0	0	2	125	207	332	
6月 / 24日	100	134	87	146	55	97	30	30	2	19	0	0	0	0	187	280	467	
7月 / 24日	93	142	90	158	57	68	26	52	2	32	1	2	4	4	183	300	483	
8月 / 21日	55	69	53	92	28	34	20	33	2	21	0	2	3	2	108	161	269	
9月 / 22日	92	118	89	133	46	58	35	47	8	25	0	2	0	1	181	251	432	
10月 / 23日	111	107	123	126	63	63	37	50	23	13	0	0	0	0	234	233	467	
11月 / 22日	85	98	102	110	53	46	24	47	25	12	0	5	0	0	187	208	395	
12月 / 23日	88	87	99	101	43	33	32	57	23	11	1	0	0	0	187	188	375	
1月 / 22日	85	114	86	125	37	57	34	56	15	12	0	0	0	0	171	239	410	
2月 / 20日	88	146	95	172	34	59	33	90	28	16	0	7	0	0	183	318	501	
3月 / 22日	93	124	100	144	43	67	29	58	26	11	0	8	2	0	193	268	461	
総合計 / 270日	1,018	1,337	1,044	1,512	537	698	335	585	160	191	2	27	10	11	2,062	2,849	4,911	

※ 開館日数 270 日 ・ 1日あたり 18.19 人

令和7年度		利用者支援事業										相談内容集計表					資料④
相 談 内 容		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計			
基本的な生活習慣	睡眠		2	1						1	1(1)	4	9(1)				
		授乳	1	2				1	2	1	2		2	12			
	食事	離乳食	3	3	7	4		1	1	2	5	4	3	4	36		
		食事						2						1	3		
	排泄		1											1	2		
離乳（断乳・卒乳）					1							(1)	1(1)				
寝返り・座位・ほふく歩行 箸使い（手指）		1		4	1		1	1	2	3	2	2	3	19			
身体の発達								1	1					2			
言語・コミュニケーション		1				1	1	1	1	1	1	1	2	8			
社会性・他者への関心					1			1						2			
力加減・不器用さ														0			
くせ・こだわり					1		2		4					7			
心・衝動性・無気力				1	1			1				1	1	5			
医学的問題			(1)								3	2	1	6(1)			
環境	家庭	夫婦				1							1	2			
		ひとり親 家族	1				1		1(1)	2			2	7(1)			
生活（近隣・地域）				1	1									2			
子どもとの関わり方		4	3	4	9	2	*	3	1		1	4	4	35			
しつけ				1							1			2			
就園・就学・預け先		1			6(1)		2			(1)	3(1)			12(3)			
療育・親子教室		1				(1)	1					1	3(1)				
就労												(1)	(1)				
その他の社会資源			1									2	3				
育児に関係あり													0				
育児に関係なし													0				
面接相談		13	10	21	25	5	12	8	12	14	13	17	28	178			
電話相談（ ）		0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	2	2	9			
合 計		13	11	21	26	6	12	8	13	14	14	19	30	187			

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日	半日 一日
0歳	半日	5	2	0	2	4	1	2	1	1	3	2	1	24
	一日	0	2	6	3	6	3	5	0	0	5	5	6	41
1歳	半日	1	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	5
	一日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	3
2歳	半日	0	1	0	0	0	0	0	3	1	0	1	1	7
	一日	2	8	0	2	0	0	0	0	0	1	10	0	23
3歳	半日	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	5
	一日	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
4歳	半日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	(半日)	6	3	0	2	4	1	4	8	5	3	3	2	41
	(一日)	2	10	12	6	6	3	7	0	0	6	16	6	74
		8	13	12	8	10	4	11	8	5	9	19	8	115

利用区分別集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	区分合計
緊急	0歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就労就学理由	0歳	4	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	0	9	24
	1歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2歳	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
	3歳	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
	4歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私的	0歳	1	4	6	5	4	4	6	1	1	8	6	7	56	91
	1歳	1	0	0	0	0	0	4	1	1	0	1	0	8	8
	2歳	2	1	0	2	0	0	0	3	1	1	11	1	22	22
	3歳	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	5	5
	4歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0歳	5	4	6	5	10	4	7	1	1	8	7	7	65	115
	1歳	1	0	0	0	0	0	4	1	1	0	1	0	8	8
	2歳	2	9	0	2	0	0	0	3	1	1	11	1	30	30
	3歳	0	0	6	1	0	0	0	3	2	0	0	0	12	12
	4歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
備考	就労	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事
	引越準備	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事	兄弟用事

乳児家庭全戸訪問事業

令和7年度実施報告書

資料⑥

月	訪問件数	2ヶ月 (乳児数)	3ヶ月	4ヶ月	多胎児 (乳児数)	センター来館	備考
4	5	3	1	1			
5	4	3	1				
6	2	2					
7	3	3					
8	3	3					
9	2	2					
10	4	1	2	*1			*8ヶ月で訪問(入院)
11	7	1	4	*2			*8ヶ月で訪問1件 (転入者)
12	5	5					
1	4	4					
2	6	4	1	1			
3	10	8	*1	1		1	*本人希望で来館
合計	55	39	10	6	0	1	

<訪問件数 55件・乳児数 55名>

*未訪問乳児:0件

*上記については福祉課・保健師との情報交換・連携済み